

平成 22 年度岐阜県図書館「図書館評価」

報告書

平成 23 年 7 月

岐阜県図書館

目次

1	岐阜県図書館「図書館評価」概要	1
2	自己評価の方法	2
3	外部評価の方法	2
4	平成22年度「図書館評価」	3
	目的Ⅰ「広域性の発揮」について	3
	目的Ⅱ「専門性の発揮」について	5
	目的Ⅲ「効率性の発揮」について（経営の視点から）	6

(資料)

1. 評価シート
2. 図書館利用に関するアンケート調査結果（県政モニター）

1 岐阜県図書館「図書館評価」概要

(1) 図書館評価の目的

岐阜県図書館が果たすべき役割、目指すべき方向性についてまとめた「岐阜県図書館改革方針」の達成度をはかるとともに、図書館法第7条の3に基づき、図書館機能の向上と運営の改善を目的として図書館評価を行うものとする。

(2) 期間

平成21年度から平成25年度までの5年間とする。

(3) 評価の構成

①評価項目

「岐阜県図書館改革方針」において果たすべき役割として掲げられている「広域性の発揮」「専門性の発揮」「効率的な図書館経営」を実現するための指標を定め、それぞれについて目標値を設定する。

②評価方法

指標に対する達成率として、以下の4段階による自己評価を行う。

評価	評価基準の内容	
S	極めて優れている。	取組や活動が極めて優れており、特筆すべきである。
A	良好である。	取組や活動が良好であり、目標が達成されている。 (数値目標の達成率100%以上)
B	不十分である。	取組や活動が不十分であり、改善すべきところがある。 (数値目標の達成率100%未満)
C	極めて不十分である。	取組や活動が極めて不十分であり、課題の整理・抜本的な計画の見直し・改善が必要である。

自己評価ののち、岐阜県図書館協議会による外部評価を行い、その結果を公表する。

(4) 評価のサイクル

- ①アクションプランに基づく事業の実施(4月～翌年3月)
- ②当該年度12月までの取り組み結果について自己評価(中間評価)の実施(翌年1月)
- ③図書館協議会による外部評価の実施(翌年2～3月)
- ④中間評価結果及び外部評価を踏まえた次年度4月からの事業計画策定
- ⑤当該年度の自己評価(最終評価)の実施(翌年3月～5月)
- ⑥当該年度評価の確定・公表(翌年7月)

2 自己評価の方法

岐阜県図書館の役割である「広域性」「専門性」「効率性」を発揮したサービスを実現するため、強化すべき取り組みの達成度を測る指標を定め、指標ごとの評価シートにより自己評価を行う。

評価シートの内容は以下のとおりとする。（評価シート：別紙参照）

- ・アクションプランと当該年度の具体的な取り組み結果
- ・指標名
- ・数値目標
 当該年度の目標値、実績、達成率、次年度の目標値
- ・評価（4段階）
- ・各指標、取り組みについてのコメント（自己評価）
- ・次年度以降の取り組み
 当該年度の問題点、改善点を踏まえた次年度以降の計画

3 外部評価の方法

評価シートの自己評価結果をもとに、岐阜県図書館協議会による外部評価を行う。

評価方法は、各指標について、目標値、取り組み、自己評価、今後の方策等に対する意見を図書館協議会の場で実施したのち取りまとめることによる。

4 平成22年度「図書館評価」

○ はじめに

岐阜県図書館では、平成21年5月に「岐阜県図書館改革方針」を策定した。岐阜県図書館が果たすべき役割、目指すべき方向性、中核図書館として真に必要な機能やサービスのあり方について見直しをし、あわせて改革案を達成するための具体的数字目標値を定めた。そして平成21年度以降、改革方針を実現するため各年度に実施すべき具体的方策を「岐阜県図書館改革アクションプラン」としてまとめ、取り組みを実施しているところである。

また、平成22年度には来館者アンケート調査（平成21年度図書館評価において報告）を実施したほか、図書館へ来館されない方の意見を図書館運営の参考にすることを目的に県政モニターアンケート調査を実施した。平成23年度のアクションプランは、こうしたアンケート調査結果をもとに作成されたものである。

以下、平成22年度図書館評価について、評価シートおよび数字目標値達成状況の概要をまとめる。

○ 目的Ⅰ「広域性の発揮」について

- | |
|--|
| <p>① 市町村図書館等への支援、ネットワーク化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none">・市町立図書館・町村図書室、県立学校図書館等、県内図書館全体のレベルアップにつながる支援、連携強化を図ります。 <p>② 県内外の情報資源へのアクセス確保・情報集約の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none">・県内外の図書館間のネットワーク化を一層推進し、情報集約を強化します。 <p style="text-align: right;">「岐阜県図書館改革方針」より</p> |
|--|

自己評価

主な取り組み内容

全領域の図書館サービス向上のための取り組みや、県行政機関との連携による取り組みを実施した。

- ・平成23年3月の相互協力協定に基づき、新たに北陸3県との相互貸借定期配送便の運行を開始（4月）

- ・ 県内の図書館職員に対する研修会を、県下各地で開催
- ・ 読書感想文コンクールに小中学生部門を新たに設置
- ・ 県美術館との連携事業実施をはじめとする、県行政機関との連携

主な達成状況

- ・ 定期配送便を利用した県内市町図書館の相互貸借件数が増加した。当館が構築した相互貸借ネットワークが効果を上げているといえる。一方で、当館の相互貸借貸出冊数は減少した。
- ・ 県内図書館職員向け研修については、高い満足度を保っている（88%）。また、県下各地で開催したことにより、研修参加機会の地域格差を解消することができた。
- ・ 読書感想文コンクールは、小中学生部門の設置により、応募総数が大幅に増加した（100件→590件）。
- ・ 岐阜県美術館と連携し、「絵本のなかの住人たち展」（6月～9月）を開催した。また、全国豊かな海づくり大会と連動した企画展示（4月～6月）等、県行政機関と連携した事業を実施した。
- ・ 県行政機関からのレファレンス件数が増加した（29件→40件）。

今後の課題

- ・ 当館の相互貸借貸出冊数の減少は、資料購入費の減少により新刊を多く購入できなかったこと等が原因の一つと考えられるが、広報がまだ十分でないという側面もあり、相互貸借制度の周知を図る。
- ・ 相互貸借に限らず、直接来館できない方へのサービス拡充を図る。
- ・ まだ連携が十分でない、図書館未設置町村の公民館図書室との連携を強化する。
- ・ 引き続き県行政との連携を図る。また、県行政機関からのレファレンス増加に向けた取り組みを実施する。
- ・ 岐阜県美術館との連携事業を継続実施する。

図書館協議会による意見

※ 図書館協議会で出された主な意見

- ・ 市町村図書館・図書室と協力して県図書館のPRに努めてほしい。
- ・ 館種を越えた各図書館や関係機関との連携を強化してほしい。
- ・ 図書館未設置町村の公民館図書室の実態を把握しバックアップに努めてほしい。

○ 目的Ⅱ「専門性の発揮」について

- ① 県民、行政等の課題解決に役立つレファレンスサービス力を強化します。
 - ・ 全地域の県民や行政からの個別、専門的なニーズや課題に、迅速・的確に対応できるレファレンスサービスの充実と利用促進を図ります。
 - ・ 県図書館独自の強みである児童図書、郷土関係資料、地図資料等のさらなる有効活用に向けたサービスを強化します。
- ② 専門性・学術性・希少性を考慮した自律的・重点的な選書・資料収集を推進します。
 - ・ 県全体の資料の効率的な活用のため、市町村図書館等との収集・保存における役割分担を明確にし、専門性・学術性・希少性を考慮した自律的・重点的な選書・資料収集の促進を図ります。

「岐阜県図書館改革方針」より

自己評価

主な取り組み内容

職員の専門性向上やレファレンスサービスの充実を目指した取り組みを実施した。

- ・ 朝のクイックレファレンス研修の開始（6月）
- ・ パスファインダーコーナーの設置（4月）とパスファインダーの積極的な作成（随時）
- ・ 学術論文データベース「CiNii（サイニィ）」の導入（23年度より導入）
- ・ 県内市町村史目次索引を新たに13件作成し、ホームページで公開（累計20件）
- ・ 児童図書研究室資料の利用促進のため、児研パックを作成
- ・ 貴重な古地図3,000枚のデジタル画像化

主な達成状況

- ・ レファレンス件数は21年度よりは増加したが（7,092件→7,654件）、過年度と比較すると横ばいである。なお、レファレンス件数は全国的にも増加傾向になく、これは、インターネットの普及により個人でも簡単な調査であれば家庭で行うことが可能になっていることが要因として考えられる。
- ・ パスファインダーを新たに32件作成し（累計37件）、目標を上回ることができた。また利用される枚数も多く（4,283枚）、セルフレファレンスに活用されていると考えられる。

今後の課題

- ・ レファレンスサービスについては、件数だけでなく満足度による評価を実施し、利用者

の要望を把握する。

- ・ 朝のクイックレファレンス研修の継続を含め、職員の専門性向上のための取り組みを引き続き実施する。
- ・ 児研パックの広報に努めるなどして、児童図書研究室資料の利活用を進める。

図書館協議会による意見 ※ 図書館協議会で出された主な意見

- ・ 県民は県図書館に対して高い専門性を望んでいる。
- ・ 電子書籍への対応について検討してほしい。

○ 目的Ⅲ「効率性の発揮」について（経営の視点）

「経営の視点」からの業務、組織及び施設活用の徹底した合理化

県の中核図書館としての役割を十分に認識し、業務の選択と集中、それに伴う人員の削減、体制の見直しを図るとともに、施設運営面においては、県美術館との一体的な連携強化によるコストパフォーマンスの向上を図ります。

「岐阜県図書館改革方針」より

自己評価

主な取り組み内容

利便性や効率性、利用機会の公平性を考慮し、新たなコーナーの設置とサービス変更等を行った。

- ・ 健康医療情報コーナーの設置（10月）
- ・ 延滞資料がある場合の新規の貸出・予約を停止（5月～）
- ・ 雑誌スポンサー制度の実施（5月～）

県民の声を図書館運営に活かすため、アンケート調査を実施した。

- ・ 来館者アンケート調査の実施（4月）
- ・ 県政モニターアンケート調査の実施（11月）

主な達成状況

- ・ 新たに設置した健康医療情報コーナーは、資料が探しやすくなったという声があるなど、

利用者からの好評を得ている。

- ・ 延滞資料がある場合の新規の貸出・予約を停止したことにより、延滞利用者の数は減少した。
- ・ 雑誌スポンサー制度により、4者から12誌の提供を受けることができた。
- ・ アンケート調査の実施により、来館者および非来館者の当館に対する意見・要望を明確に把握することができ、その結果を平成23年度の改革アクションプランに反映させることができた。

今後の課題

- ・ 引き続き施設部門の効率化を進める。
- ・ 図書館評価や図書館運営に対し、県民の声を効果的に反映させる。

図書館協議会による意見 ※ 図書館協議会で出された主な意見

- ・ 図書館ホームページの目立つところに図書館の方針を掲げてほしい。
- ・ 資料購入費に頼るだけでなく、寄贈等により資料収集を図る方策を検討してほしい。
- ・ 利用者の年齢別のニーズをアンケート調査で把握してほしい。

○ おわりに

以上、平成22年度「図書館評価」の概要を報告した。

自己評価の詳細については評価シートを、また評価結果の反映状況については平成23年度岐阜県図書館改革アクションプランを併せてご覧いただきたい。

図書館評価によって把握することのできた反省点や課題をふまえて、今後の図書館運営につなげたい。